



流星

第 11 号



昭和55年度～昭和60年度

九州工業大学責善会自動車部

目 次

巻頭言	部長・大西	1
主将挨拶	主将・生越	2
幹部紹介 (55 ・ 56 ・ 57 ・ 58 ・ 59 ・ 60)		3
試合成績 (55 ・ 56 ・ 57 ・ 58 ・ 59 ・ 60)		6
フィギュアの思い出	坂口	14
全九ラリーに出場して	貞刈	15
全日整備大会において	福田	16
春期遠征 (55 ・ 56 ・ 57 ・ 58 ・ 59 ・ 60)		18
昭和 60 年度中国遠征記	元木	31
〃	松原	35
スカベンに出場して	古寺	39
四年半をふり返って	中村	40
特別寄稿 ラリるれろ	A C K 会長 徳尾	42
九州工業大学責善会自動車部部則		46
九州工業大学責善会自動車部 O B 会会則		56
昭和 60 年度役員・部員名簿		58
O B 名簿		61
編集後記		77

巻 頭 言

部長 大 西

(教授)



今、手元に一冊の流星がある。これは九州工業大学責善会自動車部の部誌で、第8号昭和47・48年度版である。その中にOB名簿があり、昭和17年卒業生以来の名前が書かれている。私自身は本学の卒業生ではないが、昭和30年に学部を卒業している。振り返れば、その当時の友人で自動車免許を持つものは皆無であったが、唯一人だけ、父親が大企業の重役であった友人が、4年の夏休みに免許を取るといっていたのを思い出す。当時1ドルが360円、大卒の初任給が約11,000円で、ガソリンは現在よりも割高であったと思う。

このような時代にも本学には自動車部があった訳で、どのような部活があったのであろうか？ おそらく、現在の部活とは全く異質で、現在の部員から見れば考えられないような状況にあったと思う。変りがないのは、今も昔も未来も部員の年齢だけである。

藤原先生から自動車部顧問教官を引継いで2年目、自動車部の年間行事予定も大体のところ頭に入ったのですが、どうにもわからないのは多くの会合で時間が守られないことです。いつからこのような習慣がはじまったのかは不明ですが、多くのスケジュールを無事に終了するには時間厳守からスタートすることが必要と思います。

時代とともに世の中も変り、学生気質も変化します。前にも書いたように変らないのは部員の年齢とメカニズムの集成体としての自動車だけといえるでしょう。これだけ混雑している交通状況も交通のルールを守ることによって、何とか毎日が過ぎていくのですから、メカを尊ぶ自動車部員はそれだけの心構えが必要です。要は事故のないように、自由でありながら規律のある自動車部員として、学生生活を有意義に過ごされることを祈ります。

主 将 あ い さ つ

五 五 四 大 会

生 越 (3)

我々自動車部は、貴善会に属し、体育系サークルの中でも伝統的に優秀なクラブであります。近年体育会に所属する学生が減る傾向にあり、自動車部も例外ではなく一時は活動に影響を及ぼすほどでしたが、最近ようやく部員数も増え、現在では 40 名を数えるほどになり、活動内容も充実したものとなりました。これも先輩方やまわりの方々のあたたかいご支援のおかげだと思い感謝しています。

活動内容も春の遠征から始まりスカベンジャードライブコンテスト、新人戦フィギュア、全九フィギュア、全九ラリー、全日整備大会、KIT ナイトラリーそして、昨年はインカレが九州では初めてのダートトライアルとなり、今年は全九ダートトライアルが 2 戦行われる予定で、それに応じて部員の活動範囲も広がり、今後一層クラブがさかんになるでしょう。

幹部紹介（昭和55～60年）

昭和55年度

監	督	高	須	賀
主	将	尾	辻	
副将・ガソリン	會計	寺	田	
副将	連盟	畠	中	
会	計	大	野	
書	記	中	村	
O B 連絡・エルフ		阿	部	
O B 連絡		小	野	
体 育 会		大	島	
ラ リ ー		川	村	
フ ィ ギ ュ ア		浦	田	
整	備	白	水	

昭和56年度

監	督	尾	辻
主	将	高	橋
副将	連盟	大	井
副将・フィギュア	ア	平	瀬
会	計	津	曲
書	記	前	田
O B 連絡	絡	小	川
O B 連絡	絡	広	田
体 育 会	会	片	岡
体 育 会	会	稗	田
ラ リ ー	一	長	沼
整	備	森	
底	務	永	井

昭和 57 年度

監	督	高	橋
主	将	那	須
副	将	井	上
副 将	書 記	近	藤
整	備	山	本
会 計	・ フ ィ ギ ュ ア	長	木
ラ	リ	友	田

昭和 58 年度

監	督	那	須
主	将	中	村
副 将	・ 体 育 会 幹 事	福	島
副 将	・ フ ィ ギ ュ ア	山	田
書	記	石	井
会 計	・ 連 盟	小	林
ラ	リ	一	瀬
O B	・ 整 備	諸	岡

昭和 59 年度 (~ 3 月)

監	督	那	須
主	将	山	田
副 将	・ フ ィ ギ ュ ア ・ O B	諸	岡
副 将	・ 連 盟	石	井
書	記	福	島
会	計	小	林
ラ	リ	中	村
整	備	一	瀬

昭和 59 年度（4月～11月）

主	将	一	瀬
書	記	福	島
会 計	連 盟	小	林
ラ	リ	中	村
整備・フィギュア		石	井
O B 連 絡		諸	岡

昭和 60 年度

監	督	中	村
主	将	生	越
副将・体育会幹事		松	原
副将・フィギュア		近	藤
ラ	リ	柿	木
書	記	三	好
会	計	三	角
整	備	福	田
O B 連 絡		小	嶺
連	盟	真	島
体	育 会	貞	荻
体	育 会	高 以	来

試 合 成 績

昭和 55 年度

1. 第 15 回全九新人戦フィギュア

5 月 18 日

男子団体戦

種 目	A チーム	B チーム
小型乗用	22 位	13 位
普通乗用	19 位	—
小型貨物	22 位	15 位
普通貨物	10 位	16 位
総合成績	A チーム 13 位	

2. 第 21 回全九フィギュア選手権大会

6 月 22 日

男子団体戦

種 目	A チーム		B チーム	
	選手名	順 位	選手名	順 位
小型乗用	中 村	タイムオーバー	長 沼	タイムオーバー
普通乗用	浦 田	4 位	片 岡	接脱オーバー
小型貨物	寺 田	7 位	川 村	接脱オーバー
普通貨物	尾 辻	接脱オーバー	畠 中	タイムオーバー
総合成績	A チーム 6 位			

3. 第 30 回インカレフィギュア

7 月 6 日 九産大主催

4. 第 19 回全九州学生ラリー

7 月 26 ・ 27 日

九工大 A チーム

川村 尾辻 白水 浦田 4 位

九工大 B チーム

島村 平瀬 小野 高橋 5 位

優勝大学 九州大

5. 全日本学生自動車連盟整備大会

名古屋於

選手名

出場大学男子 58 大学中 29 位で予戦通過

本戦 29 位

昭和 56 年度

1. 第 16 回全九新人戦フィギュア

5 月 24 日

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	稗 田	12 位
普通乗用	大 井	15 位
小型貨物	森	13 位
普通貨物	小 川	4 位
総合成績		9 位

2. 第 22 回全九フィギュア選手権大会

6 月 21 日

男子団体戦

A チーム			B チーム		
種 目	選手名	順 位	選手名	順 位	
小型乗用	稗 田	10 位	長 沼	4 位	
普通乗用	片 岡	4 位	山 本	タイムオーバー	
小型貨物	長 木	8 位	平 瀬	12 位	
普通貨物	小 川	5 位	前 田	8 位	
総合成績		B チーム	3 位		

3. 第 20 回全九州学生ラリー

7 月 18・19 日

九工大 A チーム ジェミニ

長沼 平瀬 前田 小川

九工大 B チーム サニー

津曲 川村 永井 浦田 優勝

九工大Cチーム 710

白水 井上 高橋 友田

4. 第31回インカレラリー

8月1・2日

九工大Aチーム

長沼 前田 平瀬 小川

優勝大学 熊本大

5. 全日本学生自動車連盟整備大会

東京於

8月3・4日

選手名：森 高橋 広田 長木 那須

予選落ち

昭和57年度

1. 第17回全九新人戦フィギュア

5月23日

男子団体戦

種目	選手名	順位
小型乗用	友田	6位
普通乗用	中村	8位
小型貨物	那須	5位
普通貨物	井上	2位
総合成績		5位

2. 第23回全九フィギュア選手権大会

6月20日

種目	選手名	順位
小型乗用	友田	8位
普通乗用	山本	14位
小型貨物	長木	8位
普通貨物	近藤	11位
総合成績		6位

3. 第 21 回全九州学生ラリー

8 月 10 日

九工大 A チーム ジェミニ

友田 井上 長木 山本 10 位

九工大 B チーム ランサー

小川 一瀬 中村 那須 9 位

4. 第 32 回インカレラリー

九工大チーム

友田 井上 長木 山本 完走

優勝大学 大分大

5. 全日本学生自動車連盟整備大会

名古屋於

選手名：山本 那須 長木 小林 石井

出場大学男子 63 大学中 42 位で予戦落ち

尚 予選通過は 29 位まで

昭和 58 年度

1. 第 18 回全九新人戦フィギュア

5 月 22 日

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	小 林	13 位
普通乗用	福 島	9 位
小型貨物	石 井	4 位
普通貨物	山 田	7 位
総合成績		7 位

2. 第 24 回全九フィギュア選手権大会

6 月 19 日

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	小 林	10 位
普通乗用	中 村	9 位
小型貨物	一 瀬	11 位
普通貨物	山 田	9 位
総合成績		7 位
優勝大学		福岡大

3. 第 33 回インカレフィギュア

7 月 10 日 福岡大主催

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	小 林	10 位
普通乗用	中 村	9 位
小型貨物	石 井	8 位
普通貨物	山 田	8 位

優勝大学 福岡大

4. 第 22 回全九州学生ラリー

8 月 26 ・ 27 日

福岡周辺 200 Km

九工大 B チーム ランサー

近藤 山本 福島 山田 優勝

九工大 A チーム ランサー

一瀬 小林 井上 石井 6 位

昭和 59 年度

1. 第 19 回全九新人戦フィギュア

5 月 20 日

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	松 原	12 位
普通乗用	近 藤	10 位
小型貨物	三 好	5 位
普通貨物	真 島	タイムオーバー

総合成績 10 位

優勝大学 大分大

2. 第 25 回全九フィギュア選手権大会

6 月 24 日

男子団体戦

種 目	選手名	順 位
小型乗用	松 原	9 位
普通乗用	近 藤	10 位
小型貨物	柿 木	タイムオーバー
普通貨物	生 越	9 位

総合成績 9 位

優勝大学 福岡大

3. 第 34 回インカレラリー

7 月 14 ・ 15 日

佐賀大主催

佐賀周辺 200 Km

九工大 A チーム ランサー

一瀬 高以来 柿木 石井 4 位

九工大 B チーム スプリンター

生越 小林 三角 貞莉 2 位

優勝大学 大分大

4. 第23回全九州学生ラリー 8月9・10日 大分大主催
大分周辺200 Km

九工大Aチーム ランサー
一瀬 福田 三好 生越 6位
九工大Bチーム ランサー
中村 小嶺 三角 柿木 5位
優勝大学 熊本大学

5. 全日本学生自動車連盟整備大会 名古屋 8月1・2日
選手名 石井 小林 福田 松原 三好
出場大学男子56 大学中37位で予戦落ち
尚 予戦通過は31位まで

6. 全九ダートラ オープン参加
選手名 一瀬 1位

昭和60年度

1. 第20回全九新人戦フィギュア 5月26日

男子団体戦

種目	選手名	順位
小型乗用	坂口	4位
普通乗用	坂田	6位
小型貨物	三角	5位
普通貨物	黒田	減点オーバー
総合成績		4位
優勝大学		大分大

2. 第 26 回全九フィギュア選手権大会

6 月 23 日

男子団体戦

種 目	A チーム		B チーム	
	選手名	順 位	選手名	順 位
小型乗用	松 原	6 位	坂 口	8 位
普通乗用	近 藤	9 位	御 領	8 位
小型貨物	三 好	9 位	三 角	12 位
普通貨物	生 越	8 位	黒 田	減点オーバー
総合成績	A チーム	4 位		
優勝大学	福岡大			

3. 第 35 回インカレダートトライアル

7 月 14 日

西南大主催

選手名 生越 貞苺 元木

出場大学男子 33 大学

優勝大学 福岡大

4. 全九州学生ラリー

7 月 23 ・ 24 日

熊本大主催

熊本周辺 200 Km

九工大 A チーム スプリンター

生越 三角 貞苺 永富 3 位

九工大 B チーム オースター

三好 松原 高以来 坂口 2 位

優勝大学 大分大

5. 全日本学生自動車連盟整備大会

八王子於

選手名 福田 松原 生越 山下 御領

出場大学男子 55 大学中 29 位で予戦通過

本戦 30 位

優勝大学 東海大

フィギュアの思い出

坂 口 2)

フィギュアの思い出について書く、今年、ぼくは幸運にも、新人戦と、全九フィギュアの2つの試合を経験することができた。新年度始まって早々、合宿づめの我ら自動車部だが、その合宿の目的である二つのフィギュアの大会に出場することができたことは本当にラッキーなことであり、またとてもよい経験となった。

まず新人戦のことについて書くとしよう。場所は熊本で、朝五時に起き、食うものも食わずに北九州を出発し、高速を使っても三時間ぐらいかかる長旅だった。そこには、各地から集まった大学の自動車部の人たちが大ぜいいた。昨年、フィギュアの大会を見て来たのだが、いざ自分が今から戦うんだと思うと、緊張もひと潮だった。開会式が終わり、自分の順番を聞くといきなりの2番手だった。ぼくの種目の小型乗用は、普段から乗る車と型が同じなのでレベルが高いという話だった。だができるだけ上位に食い込みたいと思っていた。あっというまに自分の番が来た。一番の人の動きを見ると、普段通りにすれば結構いけるのではと内心思ったが、高まる緊張は押さえ切れなかった。車はマニュアルのカローラだった。日ごろの練習ではオートマに慣れていたぼくは、いきなり2回のエンストをしてしまった。最初の問題はトレッドだったが、そこでも缶接を2回もしてしまった。顔では苦笑いをしたが内心、今までの苦しい練習を思い出し、このままでは終われないという闘志がわいて来た。やっと緊張が解けたぼくは、その後は、大きなミスもなくクリアした。結果は4位、まずまずの成績だった。反省点としては最初の緊張をいかに乗り越えるかということだろう。

次に全九について書くと、新人戦での反省を生かすべく練習し、先輩も交えた選考会では辛くも選手に選ばれた。全九は昨年と同じく福岡で行われた。団体でも好成績をねらっていたぼくらは各種目とも責任重大だった。車はスターレットで自分の車と同じなのでラッキーだった。今回は新人戦ほどの緊張もなくリラックスしてできた。目標は接、脱、缶接なしとしていた。結果はその通りになったがタイムが今一つで8位にとどまった。やはり全九の層の厚さを感じた。優勝者の運転も見たが、やはり無駄のない動きに勉強させられた。

この二回の経験を通じてフィギュアの魅力というものが少し分かったような気がした。ぼくは来年もあるので、その時こそ優勝めざしてがんばりたいと思う。

全九ラリーに出場して

貞 莉 3)

昨年インカレ全九と優勝をのがし、今年の学生ラリーはインカレがダートラになり、ラリーは全九一本のため今回の全九ラリーには必勝を期していんだ。練習期間にしり上りに調子を上げていたBチームとは対照的に、ぼくたちAチームはいま一つ伸び悩み、ラリー前夜までコンビネーション練習を続けた。若干の不安を残しながらも口だけは達者で1・2フィニッシュを宣言し続けていたのは何をかくそうぼくたちAチームだった。

当日、指示書及びマップをできるだけ早くもらい対策をたてようと目的地熊本まで高速まで使い急いだにもかかわらず、見事にあてがはずれドラミ直前しか渡してもらえないとのことだった。まちにまった指示書を手にしてから一時間くらいどたばたと夕食をとりながら対策を話しあい、ドラミにいんだ。考えてみると、このドラミが落とし穴で、対策に余念のないぼくたちは、細い事項を聞きのがし最後に足をすくわれることになったのだった。

いよいよスタートの時間が近づき、3号車であったBチームを見送ってから、18号車である僕たちは、車にのりこんだ。そしてまもなくスタート。1ST、OMCP以後目標物パスコンを落として1CP、2CPとくらい先行きに不安を感じたが、それ以後はコンビネーションもうまくいき、自称ホソウ大好きDr（後でホソウハイアベに乗ったのが自分だけと知って大いに自慢していた）のおかげもあってONTIME走行を続けわりとうまくまとめられた。レスコン地点には、ハイアベ始まりの目標物を落した車、十数台をぶっちぎった珍事？のため工大Bチームの次の2番目に入った。この時点で後半をおさえれば何とかなるのではとかすかな自信をもった。そして元気よく2STへと出ていった。2STはすべてうまくおさえた。そしてゴール。まずBチームと減点を比べる。「ガーン」最大のライバルBチームに40点ほど負けていた。気をとり直し他大

学の情報を集めに回る。当初ライバル視していた佐賀大、大分大より減点は少ないようだった。もしかしたらと期待して賞典発表をまった。いざ発表があるとまったくとらぬなんとかのかわざんようで確かにラリー減点は少ないのだが、横にペナルティのおまけがついている。そうですドラミでCPではドアをきちんとしめるようにという注意を聞きのがし、しっかりとペナルティーをとられたのでした。その結果Bチームは大分大に無念にも一点差で逆転されてしまった。1-2フィニッシュの目標は結果的に2-3でまた来年に課題を残してしまった。それにしてもくやしいのはまたも大分大にしてやられたことで、優勝してもり上がる大分大を横目に信じられない気持ちでいっぱいだった。これを期に反省し九工大はラリーもマナーも最高だといわれるようになりたいと思う。それにしてもあとラリーが一戦でもあったら今度こそ優勝してみせるのになあ！

全日整備大会において

福 田 XXXXXXXXXX 3)

“29”・・・・・・この数字が順位の欄に書かれた時、我々九州工業大学自動車部の予選通過が決定した。

例年、整備大会では、各々の種目の得点と全体の順位が、当日掲示されるのである。今年も例年どおり、実技部門の結果が先に発表された。しかし、我々の得点は予想以上に悪いものであり、この時点で、“予選落ち”という言葉が心の片隅から大きく膨張していくのを感じた。“29”という数字だったのである。ペーパーテストの成績が、まあまあだったのでかろうじて予選を通過したのだ。

翌日は、本選である。

本選については、過去の資料が全く無く、本選に行かれた先輩方も皆卒業されてしまい、全く未知の世界であった。

そして、その晩、不安な夜をバスの中で過ごし、いよいよ本選の日が来た。本選ではまず、問題の概要が簡単に書かれた紙がくばられ、20分間の作戦会議が行なわれる。また、選手5人すべてが実技の問題を行うのである。そして、

作戦会議も終り、いよいよ本番である。作戦会議室から競技場へと移動し、始
まりの合図と共に競技が始まった。

・・・・・・・・・・あっという間だった。何もできないうちに制限時間が
終了してしまった。焦っていた。緊張してしまい、落ち付いて考えれば出来
ていたことも、その場では出来なかった。また、あらかじめ考えていた問題で、
車輛部門と単体部門とが、全く逆だったのも大きな失敗だった。

しかし、我々はこの整備大会においていろいろなことを学んだ。今の九工大
自動車部において、唯一、全日戦に出場している整備大会において、九州以外
のいろいろな大学を見て、数多くのことを学びそして、教えられたのである。
それは、この大会において上位を占める大学は、この整備大会に対する取り組
み方、また普段からのクラブにおける整備に対する取り組み方及び、考え方が
しっかりしているということである。それに対し、現在の我々の自動車部の現
状は、ラリーが中心であり、整備における活動はあまり活発でないように思わ
れる。

やはり、整備大会において良い成績を収めるには普段から整備に興味を持ち、
部をあげて整備に対して活発にやっていかないといけないだろう。

自分はもう今年の大会で最後だったが、今後、今年の大会をこやしに、来年
からは頑張りたいと思う。

昭和 55 年度 春期遠征 四国・山陰遠征

(1) 遠征期間

昭和 55 年 3 月 23 日～30 日 7 泊 8 日

(2) 目的

運転に伴う諸問題の研究と遠征を通じて部員の運転技術の向上及び相互間の親睦を目的とする。

(3) 参加者

隊 長	高須賀	4 年)	
副 隊 長	尾辻	3 年)	
コ ー ス	畠中	3 年)	
ユースホステル	寺田	3 年)	大島 3 年)
整備・車輛管理	白水	3 年)	浦田 3 年)
会 計	大野	3 年)	
記 録 ・ 調 査	中村	3 年)	
写 真	川村	3 年)	
O B 会	阿部	3 年)	
救 護 ・ 保 健	小野	3 年)	
島原		4 年)	須藤 4 年)
中村	院 1 年)		徳永 4 年)
淵上	院 1 年)		藤本 4 年)
石井	4 年)		武藤 4 年)
山口	4 年)		永井 2 年)
大井	2 年)		長沼 2 年)
小川	2 年)		稗田 2 年)
鴛海	2 年)		平瀬 2 年)
片岡	2 年)		廣田 2 年)
高橋	2 年)		前田 2 年)
津曲	2 年)		森 2 年)

(4) 参加車輛

いすゞジェミニ 1600LT (部車)

スバル 1300G (部車)

三菱ギャランGS (部車)
 トヨタスプリンター1200SL (部員提供)
 トヨタカローラSR (部員提供)
 トヨタカーナ1600DX (部員提供)
 トヨタカーナ1600ST (部員提供)
 日産バイオレット1600SSS (部員提供)
 スバルレオーネ1600RX-5 (部員提供)

(5) コース

第1日目 北九州 - 大分 - 佐賀関 - 三崎 - 八幡浜 - 宇和島
 第2日目 宇和島 - 中村 - 足摺岬 - 中村 - 高知
 第3日目 高知 - 祖谷溪 - 池田
 第4日目 池田 - 徳島 - 鳴門 - 高松
 第5日目 高松 - 琴平 - 西条 - 松山
 第6日目 松山 (整備・見学)
 第7日目 松山 - 堀江 - 呉 - 広島 - 可部 - 加計 - 益田
 第8日目 益田 - 萩 - 長門 - 下関 - 北九州



(6) 調査項目

- 1) 男性ドライバーと女性ドライバーの比率
- 2) 対向車のメーカー
- 3) シートベルトの着用率
- 4) ディーラー設置状態
- 5) ガソリンスタンドの設置状態
- 6) 道路調査
- 7) 燃費とプラグ

昭和 56 年度 春期遠征 九州一周遠征

(1) 遠征期間

昭和 56 年 3 月 22 日～ 28 日 6 泊 7 日

(2) 目 的

運転に伴う諸問題の研究と遠征を通しての部員の運転技術向上及び、相互間の親睦を目的とする。

(3) 参 加 者

隊 長	尾辻		4 年)
副 隊 長	高橋		3 年)
コ ー ス	平瀬		3 年)
ユースホステル	大井	3 年)	小川 3 年)
整備・車輛管理	森	3 年)	長沼 3 年)
会 計	津曲	3 年)	
記 録 ・ 調 査	永井	3 年)	前田 3 年)
写 真	片岡	3 年)	
O B 会	廣田	3 年)	
救 護 ・ 保 健	稗田	3 年)	
石井		4 年)	島村 4 年)
山口		4 年)	浦田 4 年)
大島		4 年)	川村 4 年)
白水		4 年)	中村 4 年)
畠中		4 年)	井上 2 年)
近藤		2 年)	長木 2 年)
友田		2 年)	那須 2 年)
山本		2 年)	

(4) 参加車輛

いすゞジェミニ 1600LT	(部車)
三 菱ギャランGS	(部車)
三 菱ランサー 1400GL	(部員提供)
日 産ブルーバードU1800SSS	(部員提供)
日 産サニーEX1400GX	(部員提供)

トヨタカローラ1600SR (部員提供)

トヨタスプリンター1400GS (部員提供)

(5) コース

第1日目 工大 - 黒崎 - 飯塚 - 筑紫 - 鳥栖 - 佐賀 -
江北 - 鹿島 - 諫早 - 島原

第2日目 島原 - 多比良^{フェリー} - 長州 - 松橋 - 八代 - 水俣 -
出水 - 阿久根

第3日目 阿久根 - 川内 - 串木野 - 市来 - 枕崎 - 指宿 -
鹿児島

第4日目 鹿児島 - 国分 - 霧島

第5日目 霧島 - 高原 - 都城 - 日南 - 宮崎

第6日目 宮崎 - 日向 - 延岡 - 佐伯 - 大分 - 別府

第7日目 別府 - 宇佐 - 豊前 - 行橋 - 工大

(6) 調査項目

1) 対向車調査(メーカー、FF or FR)

2) シートベルトの着用調査(男女別)

3) ガソリンスタンド調査

4) 各車輦燃費調査

5) ディーラー調査

6) 目の疲労度テスト

7) ミニバイク(原付)のヘルメット着用率

昭和 57 年度 春期遠征 中国地方遠征

(1) 遠征期間

昭和 57 年 3 月 22 日～ 27 日 5 泊 6 日

(2) 目 的

運転に伴う諸問題の研究と遠征を通じての部員の運転技術の向上及び、相互間の親睦を目的とする。

(3) 参 加 者

隊	長	高橋	4 年)
副 隊	長	那須	3 年)
コース	ス	井上	3 年)
ユース	ホステル		
整	備	山本	3 年)
会	計	長木	3 年)
記	録	近藤	3 年)
O B	会	友田	3 年)
浦田			白水
片岡	4 年)	津曲	4 年)
長沼	4 年)	稗田	4 年)
平瀬	4 年)	前田	4 年)
森	4 年)	石井	2 年)
一瀬	2 年)	小林	2 年)
田村	2 年)	田畑	2 年)
中村	2 年)	西川	2 年)
福島	2 年)	諸岡	2 年)
山田	2 年)		

(4) 参加車輛

いすゞジェミニ 1600LT	(部車)
三 菱ギャランFTO 1400SL	(部員提供)
三 菱ギャランGTO 17X	(部員提供)
日 産サニー 1200GL	(部員提供)
ヤツダサバンナGT	(部員提供)

ホンダシビック1200RS (部員提供)

トヨタスプリンター1600SR (部員提供)

(5) コース

第1日目 工大 - 門司 - 下関 - 小郡 - 山口 - 徳地 -
周東 - 岩国 - 広島

第2日目 広島 - 海田 - 呉 - 竹原 - 三原 - 福山 - 倉敷

第3日目 倉敷 - 岡山 - 津山 - 智頭 - 鳥取

第4日目 鳥取 - 北条 - 米子 - 境港 - 島根 - 松江

第5日目 松江 - 出雲 - 大田 - 浜田 - 益田 - 津和野

第6日目 津和野 - 山口 - 小郡 - 下関 - 工大

(6) 調査項目

1) ガソリンスタンド調査

2) ディーラー調査

3) 対向車 (メーカー、FF or FR)

4) シートベルト調査

5) ヘルメット調査

6) ヘッドライト調査

昭和 58 年度 春期遠征 瀬戸内一周遠征

(1) 遠征期間

昭和 58 年 3 月 22 日 ～ 3 月 28 日

(2) 目的

1. 団体生活に於ける協調精神の養成
2. 運転技術の向上
3. 燃料消費量測定
4. 道路状況調査、スタンド調査、対向車調査
5. 運転前後の脈拍数の変化の調査

(3) 参加者

隊		長	大井		4 年)
副	隊	長	山田		3 年)
会		計	小林		3 年)
車		輻	諸岡		3 年)
救		護	一瀬		3 年)
コ	一	ス	福島		3 年)
記		録	石井		3 年)
	平瀬		4 年)	山本	4 年)
	井上		4 年)	友田	4 年)
	長木		4 年)	近藤	4 年)

(4) 参加車輛

ジェミニ 1 6 0 0 L T	(部車)
カローラ 1 6 0 0 H : D X	(部員提供)
ランサー 1 4 0 0 G L	(♪)
セリカ 1 6 0 0 S T	(♪)

(5) コース

北九州 — 10 号線 — 佐賀関 — フェリー — 佐田岬 — 宇和島 Y H — 56 号線 —
 高知・筆山 Y H — 32 号線 — 琴平 — 高松 — 徳島 Y H —
 小松島 — フェリー — 和歌山 — 24 号線 — 京都・宇多野 Y H — 名神高速 —
 中国自動車道 — 三次 — 54 号線 — 広島 Y H — 2 号線 — 小郡 — 中国自動車道 — 北九州

(6) 調査項目

- 1) 交通状況調査
- 2) ガソリンスタンド調査
- 3) 車線数、制限速度調査
- 4) 脈はく数調査
- 5) 燃費調査

昭和 59 年度 春期遠征 九州遠征

(1) 遠征期間

昭和 59 年 3 月 26 日～ 31 日 5 泊 6 日

(2) 目 的

各部員の安全運転技術の向上、各種調査及び、OB との交流を目的とする。

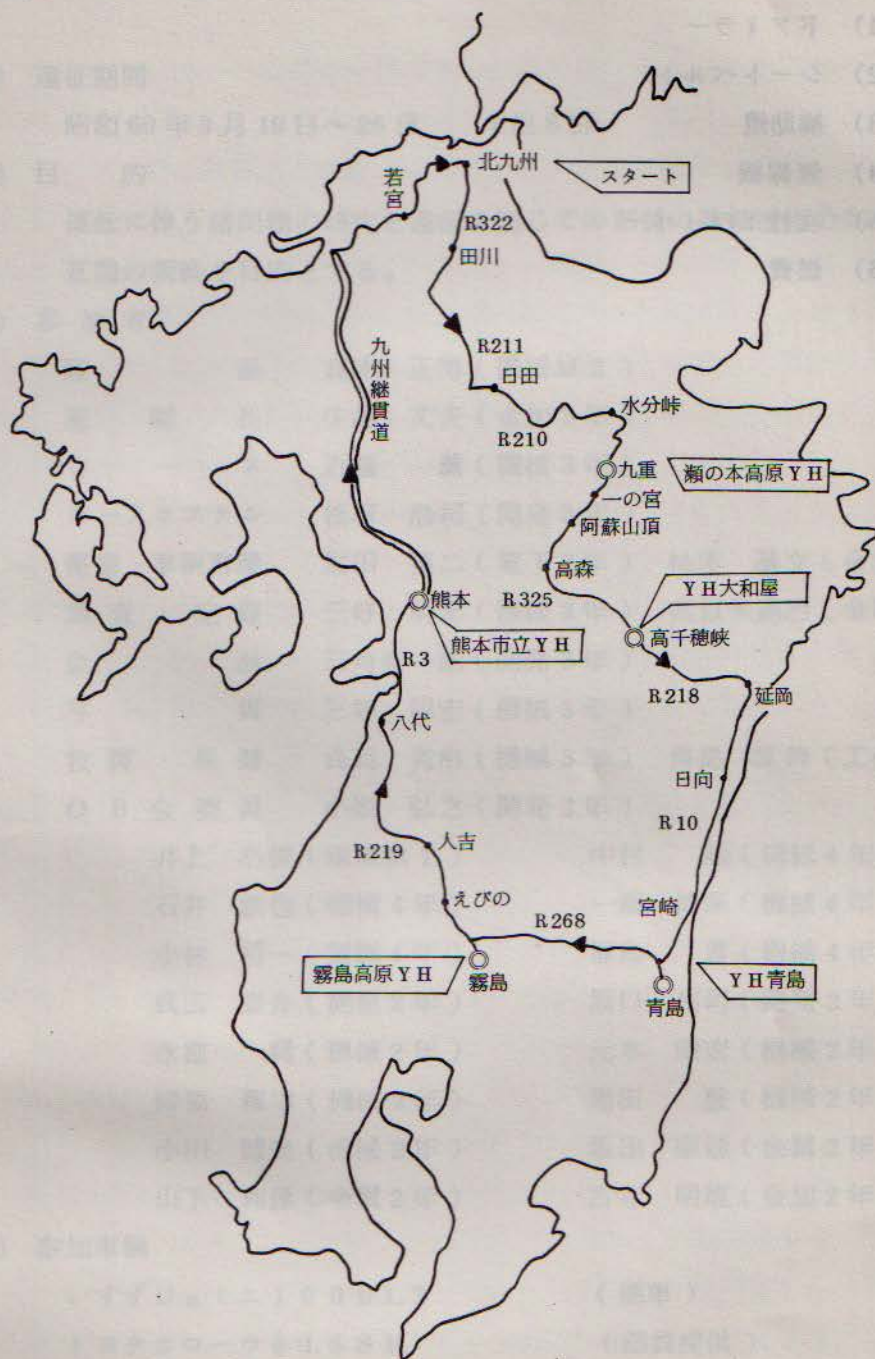
(3) 参 加 者

隊	長	那須	4 年)
副 隊	長	山田	4 年)
コ	ー	ス	諸岡
ユースホステル		石井	4 年)
整備・車輛管理		一瀬	4 年) 中村
調 査 ・ 記 録		福島	4 年)
会	計	小林	4 年)
写	真	諸岡	4 年)
救 護 ・ 保 健		中村	4 年)
O	B	会	諸岡
	長木	M 1)	小嶺
	松原	2 年)	三角
	近藤	2 年)	貞苅
	三好	2 年)	高以来
	生越	2 年)	柿木
	福田	2 年)	真島

(4) 参加車輛

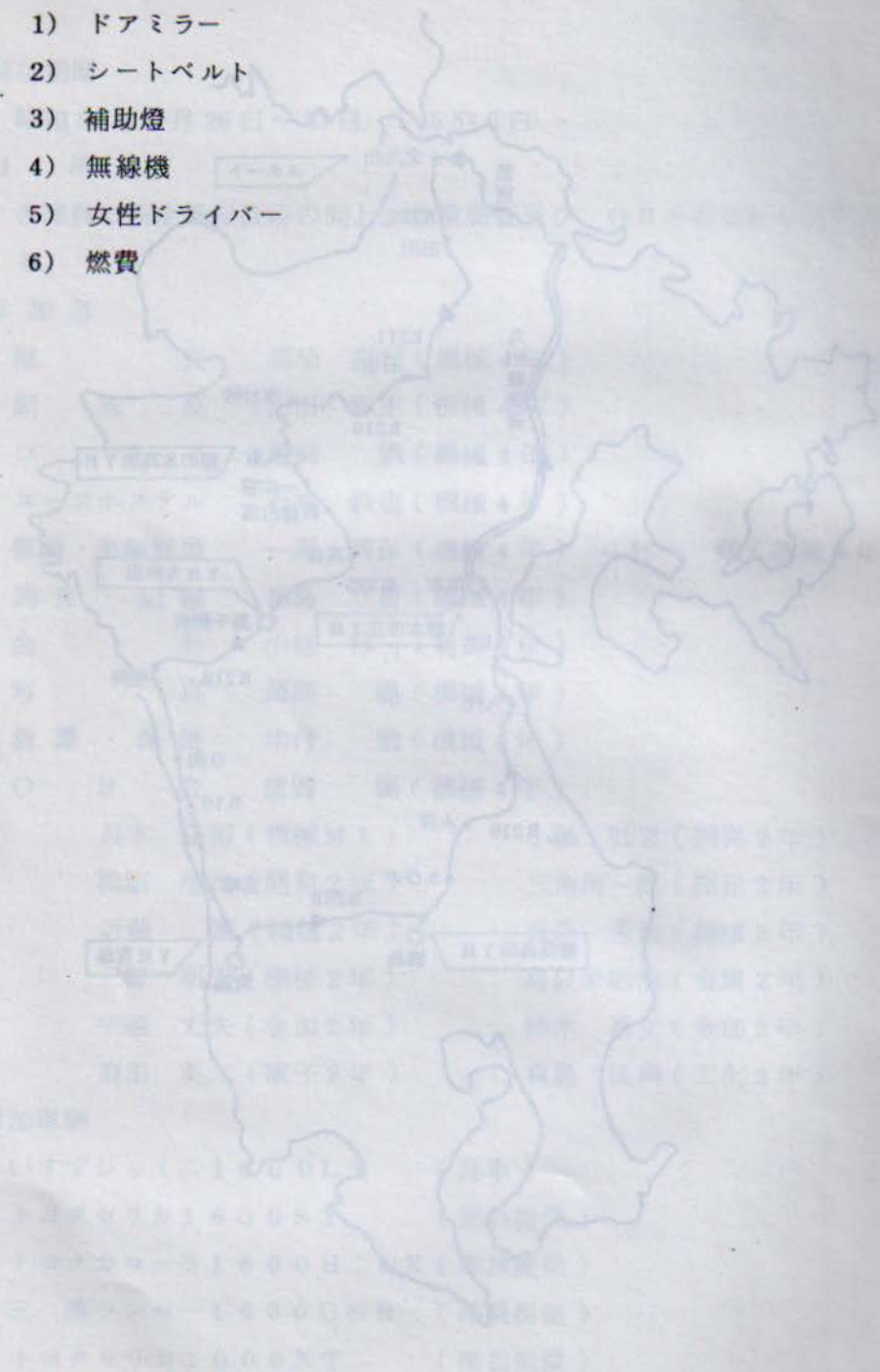
いすゞジェミニ 1 6 0 0 L T (部車)
 トヨタセリカ 1 6 0 0 S T (部員提供)
 トヨタカローラ 1 6 0 0 H : D X (部員提供)
 三 菱ランサー 1 6 0 0 G S R (部員提供)
 トヨタセリカ 1 6 0 0 X T (部員提供)

(5) コース



(6) 調査項目

- 1) ドアミラー
- 2) シートベルト
- 3) 補助燈
- 4) 無線機
- 5) 女性ドライバー
- 6) 燃費



昭和 60 年度 春期遠征 中国遠征

(1) 遠征期間

昭和 60 年 3 月 19 日～26 日 7 泊 8 日

(2) 目 的

運転に伴う諸問題の研究と遠征を通じての部員の運転技術の向上及び相互間の親睦を目的とする。

(3) 参 加 者

隊 長	長 木	M 2)	
副 隊 長	生 越	3 年)	
コ ー ス	近 藤	3 年)	
ユースホステル	松 原	3 年)	
整備・車輛管理	福 田	3 年)	柿 木 3 年)
調 査 ・ 記 録	三 好	3 年)	高 以 来 3 年)
会 計	三 角	3 年)	
写 真	三 好	3 年)	
救 護 ・ 保 健	貞 莉	3 年)	真 島 3 年)
O B 会 委 員	小 嶺	3 年)	
井 上	M 1)	中 村	4 年)
石 井	4 年)	一 瀬	4 年)
小 林	4 年)	福 島	4 年)
武 広	2 年)	坂 口	2 年)
永 富	2 年)	元 木	2 年)
御 領	2 年)	黒 田	2 年)
小 川	2 年)	坂 田	2 年)
山 下	2 年)	古 寺	2 年)

(4) 参加車輛

いすゞジェミニ 1600LT	(部 車)
トヨタカローラ II 1.5SR	(部 員 提 供)
トヨタスプリンター 1600トレノ	(部 員 提 供)
三 菱ランサー 1800ターボGT	(部 員 提 供)
日 産バイオレット 1600CS	(部 員 提 供)

日産オースター1600CSEL (部員提供)

(5) コース

- 第1日目 北九州—宇部—津和野—益田—浜田—仁摩
- 第2日目 仁摩—出雲—日御崎—松江
- 第3日目 松江—米子—倉吉—鳥取—香住
- 第4日目 香住—久美浜—天橋立—舞鶴—小浜
- 第5日目 小浜—京都—大津
- 第6日目 大津—(中国自動車道)—津山—倉敷
- 第7日目 倉敷—福山—広島
- 第8日目 広島—(中国自動車道)—北九州



(6) 調査項目

- 1) 4WD仕様車
- 2) ライト形状
- 3) スポイラー
- 4) ガソリンスタンド
- 5) プラゲの熱価

昭和 60 年度 中国 遠征 記

元 木

2)

3月19日 火曜日

朝 3:00、雨の降る中、車庫前に集合。いよいよ 7泊 8日間の中国遠征は始まりました。最終点検のあと、4:00 出発。眠いよ～。R199、関門トンネル、R2と走り始めました。途中、貝汁で貝汁一ぱいをたのんで、みやびの弁当をひろげて食べました。さすがKITAC、あつかましい事はなんのそのですな。そしてR9に入り山口を通り津和野へ。赤い鳥居をくぐり津和野の町入り。車をあいそうのいいおじさんの指示に従って駐車場にとめ（なんと無料）、津和野見物。名物のこいは、あまりみかけなかったけど、〇〇の鳥居というのはたくさんあった。女の子がよく、津和野に行ってみたくとかよく言うけど、ただいなかだけのような気もした。でも、人情のある所であることは確信できた。それから、On Courseにもどり、いざYouth Hostelへ。途中、昼食をとって益田からずっと日本海を左に走りました。浜田で時間調整のため、疊ヶ浦によりました。名の通り石畳が広がっていて、なかなか雄大な、ながめでした。そこを出発してからは、仁摩町のYH城福寺へ直行。とはいったものの、すぐ近くまできて道がわからなくて迷ってしまいました。近所のおばちゃんに聞いて向かっていくと、すごい坂で、せまくて急。YHとは、こんなすごい所にあるのかと、初めてYHにとまるものとしては、希望を失ってしまいました。

YH入りすると、まずミーティング。一人一人の反省を言ったあとA級からの注意。私の反省は、シートベルトをつけるなどの基本的な事ばかり。初日という事で少し緊張があったのかもしれない。はなしは変わって、女の子に手を振る。これは、初体験。見知らぬ女の子に“やっほー”とか“こんちわ”とか言ってというか、さけぶというか、ほとんどおどし。何人かの女の子はびっくりしてました。でも何人かは、振り返ってくれたり、おじぎをしてくれたり。ありがとさん。ミーティング後、一年は風呂に入り、上級生はコースミーティング。私たち二人は、YHの風呂は小さいということを聞いたもんで、他の一年よりも先を争って風呂に入ったのはいいが、だれも他の人は入ってこない。おまけに風呂は浴そうに二人入ったら肌がふれあってきもちわるいくらいせまい。これは、おかしいと思いつつ、風呂からあがってきてみれば、実はもう一つまともなのがあったのだった。初日から波乱づくめの遠征になってしまっ

た。そして、次は飯。なんとすきやきだった。材料は用意されていて、あとは好きなようにということで作っていると、みんなまちきれなくなって、とつぜん競走になってしまった。肉は生で食べるし、飯を食べる速さはすさまじいものだった。あげくのはては、おかまそうじ、つまりご飯つぶをかきあつめて食べたりする人もでてきた。それから、今日のお話しをしていたらいつのまにか10時になって消燈。おやすみなさい。

3月20日 水曜日

朝6:00“起床”の一言でとびおき、始業点検。そのあと朝ご飯のカレーを食べて出発準備。A.M8:00和尚さんと写真を取り、見送りの人に手を振って出発。今日も日本海ぞいを通して湖陵町からR431を通して出雲大社へ。出雲大社にて、“かわいい女の子がみつかりますように”とお願いして、日御碕へ出発。日御碕に到着寸前、女の子の集団に手を振ったのち、突然ウィンカーが右に。そのまま駐車場入り。指さされて笑われて、はずかしかったなあ。それから“焼いかいかがですか”のおばちゃん言葉に耐えながら燈台に。入場料50円をはらって登台。これまた、階段が急。上をみながら登っていたところ、バスガイドの見習いが上から集団で降りてきて、なかなかきわどいシーン続出。ラッキー。しかし、上では地ごくがまっていた。というのは、実は高所恐怖症のため、燈台のてっぺんのまわりにある展望台には、でるのが、当然のごとく恐いわけでして、まごついていると悟られてしまって無理やり一周させられ、あげくのはては、おとされそうにもなりました。もう二度と来んぞー。それから昼食をとり平田を通して松江へ。松江につくと枕木山に行って、穴道湖を一望。なかなか、よきながめでした。その後松江YHで一泊。

ここのYHにはなんと女の子がとまっていた。自分たちが食堂で歌っていると、女の子たちも来たので、あまり好みではなかったけど、とりあえず声をかけて一緒に歌いました。まあまああいそうのいい女の子だったので消燈直前まで、のどがかれるまでうたいまくりました。楽しかった？

3月21日 木曜日

朝、いつものごとく始業点検をして、出発。今日は、必殺部車のジェミニ。マフラーの音がうるさくてたまらない。

コースを出発して、1時間くらい走ると右手に大山が見えはじめました。まだ、雪が残っていて上に雲がかかっていた。やっぱり、さすがにきれいだった。それから大山をバックにして写真をとって気分をひきしめて出発。次は、鳥取

砂丘へ。ここは、なかなか楽しかったですね。その一、砦の手前の砂の丘に K I T A C の文字をかき T の字でねころんでうでを広げて、ハイチーズ。靴の中に砂が入りまくってしまった。その二、またもやその丘の逆つまり海側でバック競走。あはな 5 人組が、ヨーイドン。自分は途中ですってんころりん。まあなんとか、下まで降りたのはいいけど、もう一度登ると思うと体力がもちましょ〜ん。その三、こんどは、その逆、つまり丘の陸側で 100m 走。これはすごかったね。なんせ、さいふをおとす人はいるわ、免許証落とす人はいるわで、大波乱。なんといっても、普段“いのしし”とあだなのついている 3 回生の先輩の走りはすごかった。降りるにしたがって、体の角度がだんだん地面と直角になり、腕のふりが大車輪。あげくのはては、ドテン。全身同時に地面となかよし。まさに、いのしし走法だった。おまけとして、すけべな男 2 人がひそかに女の子と一緒に写真をとっていた。それからは、Y H に直行。途中の浜崎手前のワイディングはすごかったですね〜。今日の Y H は香住の余部 Y H です。

3 月 22 日 金曜日

今日は自動車部唯一の新車カローラ II。ちなみに参加車輛は、1 号車ジェミニ、2 号車 P A 1 0 バイオレット、3 号車ランタボ、4 号車 P A 1 0 オースター、5 号車カローラ II、6 号車 T E 7 1 トレノ。

今日のコースは、但馬海岸道路をって R 178、天橋立へ。ここでは、昼食をとっておみやげを買うだけになってしまった。そして R 27 に入り小浜 Y H へ。但馬有料道路で見た水平線はよかった。地球のまるさを感じるほどだった。この日は、ハブラシ事件が解決した日だった。副隊長までもハブラシをなくして、さわいでいた。でも久美浜でハブラシを買ってやっと解決。今夜からすがすがしい夜をむかえられるな。

3 月 23 日 土曜日

今日は、R 303、R 367 をって京都見物。今日は整備の日で京都のガソリンスタンドで行いました。それから清水寺へ。道に迷いながらもなんとかたどりつき、神水をのんできました。またもや例のスケベ 2 人組に女たらしの 1 人がくっついて女の子と一緒に写真をとろうと頑張りました。今回は失敗。清水寺手前の店のならぶ参道では、きまえのいい店があった。“どうぞ”とかいって生ハツ橋の半分に切ったやつを手のひらいっぱいにくれた。そしてまた帰りにも、“K I T のおにいちゃん、お茶のんでいきんさい”とかいってまた手のひらいっぱいにくれた。それでお茶飲んで結局はいろいろ買って帰りました。

今日はハードな道ばかりで2年で運転できない人もいたので、もう少しコースを考えてほしかった。今日のYHは大津YH。

3月24日 日曜日

今日は、初の高速にのって倉敷へ。天気もよく、最高の気分。ただ5人乗車がきつかった。しかし、メンバーが最高だったので遠征最高の日になりました。院庄I.Cで高速をおり、R429を通過して倉敷へ。岡山でバイクのねえちゃんに声をかけました。とはいっても女好きのA級の指示で、にがての年上だった。うわさによるとA級福島さんの好みのタイプだとか。分かれぎわにバイバイして、次は右どなりの自動車に手を振りまくりました。なんとラッキーなことに、信号で車がとまったとき、となりの車に乗っていたおねえちゃん？がネーブルをくれた。このネーブルはどこに行ったのでしょうか？たぶん“がめつい”〇〇さんの所に……。これからも頑張って手を振ろう。今回は鷺羽山YHだ。この夜、なんと恒例、激写のえじきになってしまった。自分の前に一人やられているのがさけび声で分かったけど、まさか自分がされるとは。抵抗のかいなく、ついに半ケツ。次は、自分に指名権があたえられて黒姫山（白杵の石仏）にターゲットがしぼられた。名前の通り力があるもんだからこれは苦勞しました。

3月25日 月曜日

今日は、鷺羽山スカイラインを通過してR2を通過して広島へ。この日は朝から調子がよかった。一号車つまり自分たちの車が他の車からはぐれ、R2に向かっていると、女子高生がバス停で待っていた。それですかさず手を振ると、なんと信号でとまってしまった。こりゃ、まずいと思って後祭。しかたなく自己紹介して話しをしてしまった。なかなか二人ともかわいく、話しやすい子だった。ラッキー。それからパチンコ屋で、各車集合して、広島へ。今日は昨日に続いて走るだけの1日だった。そして広島YHへ。さすが広島。外人が何人かとまっていた。夜景もきれいだし最高だね。（実は私は広島出身でした。）

3月26日 火曜日

ついに最終日。広島北I.Cから紫川I.Cへ。長いようであつというまの8日間だった。2時すぎに九工大に到着。洗車をしてかたづけ。6時30分正ちゃんに集合して打ち上げ。パーッとさわいで遠征に終止符を打ちました。

P.S 大津YHにて。

津曲さん、ご訪問どうもありがとうございました。たのしいOB会にすることができました。

昭和 60 年 度 中 国 遠 征 記

松 原

3)

3月19日 火曜日

朝から雨が降ったり止んだりの天気である。朝といっても午前3時、我々の今日の予定は、午前3時集合、4時出発し、山陰の大田市近くまで走行するというものである。時計はもう3時を指しているが車庫前に集まっているのはまだ半数ぐらい。集合時間が早いため寝惚けて忘れ物までする者もいる。全員が揃ってミーティング、車の点検などを終え、やっと全車6台が出発したのはもう5時近くであった。

出発して1時間くらい、国道2号線沿いの食堂で朝食をとる。周りが明るくなり、ここでA級の先輩から下級生へドライバーチェンジを行なう。小郡から国道9号へ入り、山口市を通り抜けて津和野に10時に到着する。ここで1時間程度の見学、西周旧家などをまわった。再び9号線を上り益田市郊外の海岸で弁当を広げる。風が強く、せっかく海の見える場所を選んだのにもかかわらず、海を背にして昼食をとった。また9号線を通して今日の宿舎のユースに到着したのは午後4時。ここはお寺で、ミーティング室には空海の伝記など置いている。寝床は仏壇の前だった。

今日一日快適なドライブで、9号線はすいすい走れるし、海はきれいだし、天気も次第によくなって、ユースに着いた時はもうすっかり青空が広がっていた。第1日目は長かったけれども予定通りにいってひと安心した。

3月20日 水曜日

ユースホステルを8時に出発し、前日に引き続き9号線を東へ。今日の予定は松江までで、初日の長い行程とは打って変わって距離は150キロ程度である。出雲市で9号線と別れて出雲大社へ立ち寄る。静かなたたずまいは歴史を感じさせ、何か圧倒するものがあつた。大社から約30分北上して日御碕を訪れる。天気がたいへんよく、白くスマートな燈台からの日本海の眺めはすばらしい。高所恐怖症の者がみんなからいじめられている。下から螺旋階段を目がまわる程ぐるぐる登ってきただけあって、燈台から真下を見るとさすがにぎょっとした。あたりを暫く歩き回って腹をすかして食堂へ、安い物を選んで食べる。十分な休憩をとった後、国道431号に乗って松江に向かう。ようやく遠征気分がもり上がって、道行く女の子に手を降り声を掛ける者がでてきた。

一旦今日の宿舎の松江ユースの前を通り過ぎ、混雑している松江市街を抜けて枕木山へのぼる。登山道だけに左右のカーブが続く、今まで単調だったコースに少々飽きていた我々にとって多少の眠気覚ましとしての役となる。山頂付近で中海を見降ろし写真を1枚、毎度の事ながらカメラにみんなが押しかけてまともな写真とはならない。登山道を下って松江市で妙な小さい道にミスコースしながらも、ユース到着は予定ちょうどの4時半であった。

3月21日 木曜日

2日間運転指導していただいた井上さんが都合で今朝北九州へ戻られ、今日からは6台の車に対してA級5人で、止むなく3年生を仮A級として出発する。遠征の企画を行った我等3年生は非常に不安であったが、無事故で帰る事を改めて確認し気を引き締め直す。

8時30分に出発した我々は、前日に引き続いて単調な9号線を鳥取に向かう。途中雪を頂く大山が見え、さっそく写真撮影をする。(言い遅れたが、写真担当は一眼レフカメラを買って数回しか使ったことがないという三好君である。)写真係を決して責めるわけではないが、後日その写真を見たら肝心の大山がほとんどわからないという結果であった。

午後1時鳥取砂丘に到着、腹ごしらえをして砂丘に挑む。天気にもぐまれて、その分、観光客も多くて、せっかくの砂丘も到る所足跡だらけなのは少し残念である。しばらく歩き回った後、丘の上で休憩。砂の上を歩くのは結構疲れるものだと感じる。さあ車に戻ろうという時になって、突然我が遠征隊々長である長木さんが丘を駆け降り始めた。そこは相当急な勾配で、歩いて降りるのにも注意しないと倒れそうになるぐらいだから、走り降りている長木さんの足は上半身の動きに追いつかずに無残にも転げ落ちる結果となった。我々はその隊長の突発的な行動に啞然となったが、一瞬後大爆笑となった。隊長に続けとばかり元気のいい2年生達が次々と砂地での直滑降に挑んでいったのである。その中で3年生の近藤君もまた、日頃の運動不足からかどうかはわからないが、みごとに転倒して顔でブレーキをかけるという凄い技を見せてくれた。

砂丘で十分遊んで、今夜の宿泊地余部ユースに着いたのは5時前、今日はすっかり疲れてしまった。

3月22日 金曜日

ユースを出発して国道178号線を東に向かう。この道は9号線に比べやはり道幅も狭くカーブも多い。また小さな町の繁華街は道が十分な整備が為されて

なく、センターラインもない所がある。それでも日本海岸沿いの道だけに眺めだけはよい。但馬海岸道路を通っていくと一段と絶景である。

海岸沿いから山へちょっと入り込む道を行く予定であった今日は、ミスコースが何回もあった。出発の際一号車の中村さんは無線で、「僕が先頭だからミスコースはしないよ」と言っていた事をちらっと思い出した。その中で最たるものは、丹後半島を横断する道路でのミスコースであった。そこは県道で、似たような道が何本もあり、どれが目指す道なのか地図を見てもはっきりしない。やむを得ずに最も道幅の広い道を選んで進んでいくと国道 312 号に出る。予定と多少違ったが、少しまわり道した程度だったので一安心。昼も近いので天橋立へ道を急いだ。

天橋立は日本の有数の景勝地だそうだが、それほどりっぱなものだとも思わなかった。もっとも 30 分しか時間がなかったので、ちょっと歩いただけだったが。

再び 178 号を行き、途中 27 号に移って有名な港町の舞鶴を通る。国道のすぐ左手は港で、自衛隊の船舶が何隻も停泊しているのが見られた。午後 3 時 45 分小浜到着。ここのユースは小浜市立で従業員の人数の都合で、市立国民宿舎で夕食と風呂をすませてユースに向かうようにとのこと。国民宿舎だけに夕食もこれまでより良いし、風呂は格段に広くて、なにより湯がきれいなのはいい。ゆっくりした後、ただ寝だけのユースへ行った。

3 月 23 日 土曜日

いよいよ今日は日本海を離れて京都へ。地理的にちょうど折り返し地点の大津が宿泊地だ。道は山と山の間を走り、くねくねと曲がって狭い。途中の小さな集落を結ぶバスとの離合が大変である。それでも国道かと思ったが、速度制限は解除になっている所があった。奇妙な事に道が急に狭くなったとたんに制限解除となっている。京都の大原あたりでやっと普通の道路となる。

今日は整備を京都市内で行なう予定なのでガソリンスタンドを捜しながらの運転である。きょろきょろと左に注意して走るので同乗者は少し不安がる。それにしても京都の運転マナーの悪さはひどいものだ。北九州もかなり悪いという話であるが、その北九州の人間が驚く程のものだから相当だ。少しでも発進に手間取ろうものならクラクションが飛びかい、前の車とちょっと間が開こうものなら左右から車がさっと割り込む。全くここの運転は疲れてしょうが無い。適当なガソリンスタンドで整備を済まし、円山公園の駐車場へ車を預けて 2

時間の自由行動をとる。各々、知恩院、八坂神社、清水寺へと見学へ、土産品も買い込んで大津ユースセンターへ向かう。

ユースではOB会が開かれる予定だ。昨年は一人も来られなかったという結果だったので、今年もひょっとしてまた、と思っていると59年卒の津曲さんが来られた。2年生からいろいろと質問が出て、それに答えてもらう。

結局たったひとりだけだったけれども、楽しいひと時であった。

3月24日 日曜日

ユースを出てすぐ大津ICから名神高速道に乗る。走行中5号車のボンネットが開きかけてひやりとする。大阪あたりで多かった車も西に行くに連れて少なくなり、対向車調査もできず退屈である。

津山ICで高速を降り国道53号を南へ岡山を目指す。当初の予定では倉敷で見学時間を取っていたが、予定時間よりもずれ込んでいて中止、直接鷺羽山ユースへ向かうコースをとる。岡山の市街で工事に会い渋滞、信号が青なのに少しも前に進まない。ここでかなり時間を食って国道2号線へ、この道路は先程と打って変わり高速道路のような高架で速度も制限解除、すいすいと走れる。途中で県道に折れる。バスが道に面した家の軒をこわして行ったのを見た、それ程狭い道である。ちなみにその家はお葬式中だったという冗談のような話である。

ユースは瀬戸内海を一望する位置にあり、今工事中の本州四国連絡橋のつり橋に夕日が落ちていくのは実にきれいであった。

3月25日 月曜日

2号線を広島まで行く予定、山陽道はどこも似たようなもので、左手には工場が並び何十キロごとに小さい市を通り過ぎるといった、快適とはいえないドライブである。もうそろそろ広島市だという所まで来ていきなり車がかえ前に進まない。先輩達が退屈しのぎに無線で色々おもしろい話をしている。のろのろ車が動き出す、事故が渋滞の原因らしい。フロントが潰れた車が右に置いてある。

時計を見ると予定より遅れている。昨日と同様に広島市での見学が潰れて直接ユースへ、これで2日連続車に乗りっぱなしで少々飽きた。事前の予定の立て方がちょっと雑で、もう少し山陽道は余裕をみるべきだったと幹部の一員として反省する。

さて市内にはいりユースへ、ここの詳しい地図が手に入らずコースを間違え

ないよう注意を払ったにもかかわらず目的地を通り過ぎてしまう。やっとユースに着いて中に入ると外人ばかりでびっくり、半数近くは外人さんではないだろうか。さすが国際的都市の広島市であると、妙に感心してしまった。

3月26日 火曜日

今日が遠征の最終日、無事にここまで来たが最後まで気を引き締めて運転しようと思う。朝の混雑の中を国道54号線を北へ、広島北ICから中国高速道に入り、後はこれを一気に北九州まで走行する。無線で歌などを歌って楽しんでいるうちに壇之浦SAに到る。もう目の前は関門海峡をはさんで九州だ。なんとなくつかしい気分が起こってくる。車6台揃って関門大橋を渡り、北九州道路を経て学校へ午後3時に無事全員帰り着いた。遠征8日間は長かったけれども、それでいて何か短かったような気持ちである。途中でいろいろ予定通りに行かない事もあったが、事故がなくてほっとする。各遠征隊隊員もそれぞれ、十分な思い出をつくった遠征であったことだろう。

スカベンに出場して

古 寺 2)

今日は5月19日。待ちに待った第14回KIT・スカベンジャードライブコンテストの日である。思いおこせば出場を決意したその日から、ナビの坂田君とともに練習に練習をかさね、今日の本戦にそなえてきた。自分たちはコンピューターをとう載した名車サニーでの出場であるので、絶対に負けるはずがない。とはいいつつ弱冠ナビは分間走行に不安があるのでかならずしも安心はできない。前日の練習でも、以前行われたXマスラリーと正月ラリーのMAPを使ってやったのだが、ファイナルが出るのは最初だけといったぐあいで、どうもうまいかない。しかし、そのうちナビもようがでてきて、ファイナルを出しながらいっぷくという場面もみられるようになった。あとは自分がMAPをみおとさないでオン・コースを走れば計算はコンピューターがやってくれる。といったぐあいで万全の態せいでのぞんだ。

同乗はやはり、クイズの正解より、楽しいコミュニケーションを目的としたために女の子をのせることにした。

スカベン当日、あいにくの雨となってしまったが、別に関係ない。ただのド

ライブだ。車検を受けていよいよ出陣の時が来た。自分たちは53号車である。スタート地点の中村さんと、悪魔の武広に見おくられてコースに出た。OMCPまで約13km、ほとんどむずかしいMAPはないので楽勝だ。若戸大橋をわたってから普段はロータリーを右にまわっていくところだが、今回はちょっと違っていた。橋を下ってからまっすぐ、ひたすらまっすぐであった。途中でいままでの道に入っていた。なんと親切なことにOMCPはかんぽんだけではなく、一瀬さんまでいたのでおどろいた。OMCP処理をしたあと、小便をしに車外へ出た。

さて、いよいよナビの坂田君が本りょうを発きするところだ。まずはうまくあいに行っているようだ。おっとパスクンが来た。うまくやれるだろうか。おっ、ファイナルが出た。正確かまちがいはわからないので、ひたすら信用するだけだ。いよいよ1CPが出てきそうなふんいきである。一たん停止で止まったあととんでもないことがおきた。ギャップを越えた瞬間、室内につんでいるコンピューター用のバッテリーがたおれて、見ごとコンピューターが死んでしまった。あとは感にたよって走るしかないと思ってなんとか1CP。あとでわかったが、ここでの減点は0だった。あとはやはり分間走行で死んでしまい減点をくらってしまったが、雨にもかかわらず、車内は実に和気合々として楽しかった。まあ、結果は、トリップ組の坂口君達に負けてしまったが、女の子の作ってきてくれた弁当もおいしかったし、楽しい一日だった。機会があればまた女の子をのせて出てみたい。

四年半をふり返って

中 村 4)

自動車部に入部して4年と数ヶ月、自動車部の半世紀にわたる歴史からみれば、ほんの一瞬だが、このわずかの間のクラブの変化について私なりに書きたい。

1981年4月、私が入部した一番の動機は「3万円で免許が取れる」という看板だった。金の余裕のない私にとってまともに15～16万円も払って免許をとるのは無理に思えた。又、束縛されないクラブだろうとも思った。好きな時にあの車庫に集まり、車の整備をし、ラリーやレースに参加する、それが入部

前のクラブのイメージだった。ところが、私の期待はみごとに裏切られた。免許は確かに3万円で取れたが、練習は毎日あるし合宿もあった。また募金などもあって他のクラブ以上に束縛された。そんな期待はずれから救ってくれたのは、やさしく、おもしろい先輩方だった。

私が入学当時、たくさんの先輩方がおられた。とても、1度や2度では覚えきれない。2〜3ヶ月たっても初めてみるような先輩方も少なくなかった。そして、一人一人、特徴のある先輩方が多かった。例えば、フィギアといえば浦田さんだったし、ラリーといえば川村さん、整備のことは長沼さんに聞けばだいたいわかった。中村聡さんは、九州中の道を知っておられるかのようにだった。そして、部会といえば尾辻さんだった。

部会は、とても恐かった。日頃、みたこともない大勢の先輩方が集まって怒る所とも思えた。尾辻さんのこわさは天下一品で、当時、主将だった高橋さんも四苦八苦していたように思う。まさに、幹部にとって部会は、戦場であった。そんな中、1年生だった我々は、私語はもちろん、タバコも吸えなかった。それほど部会では緊張していた。

又、その頃、クラブの成績は、五大学ラリー、全九ラリー、インカレラリー、モルなどラリーに於いては敵なし、フィギアに於いても、福大、西南に続いて3位と好成績であった。私は、ある日、高橋さんに「すごいですね」というと「当たりまえだ、九工大自動車部は昔から九州で一番だ。そのへんのクラブとはちがうんだ」と教えてくれました。

その後、1982年春、新入生は5人しか入らなかった。私たちの年代が7人だったのでなんとかかなと思っていたが、夏過ぎに2人やめ、次の春2年生になる前に3人ともやめてしまった。これは、クラブの存続問題であった。当時幹部になって間もなかった私たちは、新入生を入れることに全力をつくして、11人の新入部員を得た。ようやく、クラブは息をふき返したが、その穴は大きい。私達幹部は2年間幹部を続け、そして、1年生には1番親しい先輩であるはずの2年生がいない。これは今までどおりのクラブ運営を続ける上で思った以上にきつかった。活動内容についても、範囲をせばめねばならぬこともままだったし、ラリーのオフィシャル、また先輩・後輩の間においても1学年のブランクは影響があったようだ。成績についても、今一步かんばしかなかった。この時期、徳尾氏を始め藤原先生、みやびの方々、多くの先輩方にも御心配をおかけした。

今、クラブの状況はどうだろう。見る立場がちがうので一概にはいえない。人数構成からいえば、5・6回生9人と上級生の数が非常に少ない。昔のように頭デカッチな構造ではないが、上級生が教える部分が少ない。又、少なくとも、1・2年生にとって部会は恐ろしいものではなくなっているようだ。平気で話はするし、タバコもすう。昔から上下関係はさほどきびしいクラブではなかったがきちんとする時は、きちんとしていた。それがくずれてきている気がする。又、自己中心的で全体のために自己を犠牲にすることを嫌うようだ。この現象は、他のクラブや寮においても同じような状況だ。世の中の流れで逆えないのかもしれない。

しかし、今、九工大自動車部は、再び明るい方向へ進んでいることは確かだ。幹部、2年、1年と、それぞれ10人以上いる。時代はかわっても車大好き人間が集まっているのには変わりない。人が多ければ多いほどおもしろい人間も多い。過去のクラブの活気を取りもどしつつある。去年顧問の先生も大西先生に変わられ、来年車庫も新しくなる。これからの新生自動車部も、今までの「自動車部気質」を受けついでしっかり続けてもらいたい。

ラ リ る れ ろ

徳 尾 (ACK会長)

内政の干渉はあまりすまい。本来あるべき姿の追求は部員の使命であり、責任である。またある意味では権利でもある。

とは云うもののつい口やかましく云って来たような気がする。自動車部との付き合いが初まってもう何年経っただろうか。おかげで多くの学生と接する事が出来た。私の心の抽出しの中にはそれこそ多くのいろんな学生像が蓄積されている。私の大学生時代は云々と云う話があまりにも古過ぎて何の効果も見出せなくなってからは卒業生のそうした姿を時に触れ折に触れては小出しにして学生達の刺激、発奮の為に、またある時は安堵感の中から勇気付ける為にも大いに役立つ話もあったと思う。

ともあれ無限の可能性を持った若者に接して20年近く、そのほとんどがラリーを通しての話し合いではあるが親しく人生を語れた私は幸せだ。でも担当者が何の感傷もなく数秒毎にスライドさせて行くフィルムのように、もう少しも

うーコマと思う
間もくれず毎年
多くの学生達は
送り出されて巣
立ってしまった。

その時その日
の風に乗ってあ
る者は南へ、ま
たある者は北へ
東へ、そしてそ
こでしっかり根
を張り力強く生
きぬいて芽を出



し葉を茂らせて花を咲かせてほしい。そんな祈りをこめてタンポポとある時代のKITラリーチームに名を付けさせてもらった。

その後、二世、三世と何年か続いたが最近は聞かなくなったのはやや寂しい気がする。

しかし学生界にとどまらず一般のラリーの中にまでKITナイトラリーは燦然とその名を輝しめて、今や九州のジュニアチャンピオン戦の一角の責を果せるようになったのは先輩諸君の伝統の継承の賜物と思う。

出来ることならOBになってこそ是非この一戦に参加して楽しんで欲しい。そして一言外部から見た講評がどんなに役立つことか、タンポポの苗達もきっとそれを慈雨にしてくれることと信じている。

○ 藤原先生が近畿大学に転任されたため、新しく部長に、大西 教授（ ）がなられました。

○ 次の方々より部誌の寄付金をいただきましたので、ここに名前を記載させていただきますとともに厚くお礼申し上げます。

(17 年卒) 豊田

(20 年卒) 平位

(24 年卒) 真那子

(25 年卒) 酒井

(26 年卒) 川崎

(28 年卒) 後藤

佐武

(29 年卒) 城

(32 年卒) 丸山

笠原

(33 年卒) 林田

原田

川村

斉藤

(35 年卒) 進藤

(37 年卒) 門司

木村

(38 年卒) 森光

(39 年卒) 砂本

宮崎

横田

米倉

(40 年卒) 木田

(42 年卒) 芳賀

片岡

(43 年卒) 伊藤

(43 年卒) 木庭

(44 年卒) 伊藤

松原

(45 年卒) 八木

(46 年卒) 佐藤

山本

山本

(48 年卒) 浜田

長尾

泡田

高見

(49 年卒) 堀川

(50 年卒) 鳥越

畑中

(51 年卒) 高橋

本吉

(52 年卒) 坂井

板井

永田

野瀬

(53 年卒) 八木

江頭

(54 年卒) 舩重

早田

木場

近藤

(54 年卒) 山下

国栖

(55 年卒) 孝橋

福川

洲上

太田

網田

大原

島原

府内

(56 年卒) 岩尾

(56 年卒) 石松

山本

島村

(57 年卒) 小野

尾辻

白水

(59 年卒) 稗田

大井

小川

津曲

(敬称略) (昭和 60 年度 12 月現在)

○ 昭和 61 年 3 月頃に、西南門横に、車庫が新築される予定です。

○ 幹部紹介、試合成線の詳細に関しては、懸命の努力をいたしましたが、不明の点が多かったことを、深くお詫び申し上げます。



昭和 60 年度部員一同 (車庫前にて)

九州工業大学責善会自動車部部則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 当部は、九州工業大学責善会自動車部と称する。
- 第 2 条 当部は、自動車に関する整備・運転技術の修得及び研究をすると共に学生生活に於ける部員相互の親睦をはかり、且つ、自動車文化の向上に貢献する一方、部の健全な発展に努力することを目的とする。

第 2 章 組織及び構成

- 第 3 条 当部は、九州工業大学責善会体育会に属し、全日本学生自動車連盟に属する。
- 第 4 条 当部は、九州工業大学生をもって組織する。

第 3 章 役 員

- 第 5 条 当部は、部の運営に当って次の役員を置く。

部	長	1 名
顧	問	1 名以上
監	督	1 名
主	将	1 名
副 主	将	2 名
会	計	1 名
書	記	1 名
ラリー	委員長	1 名
整備	委員長	1 名
フィギア	委員長	1 名
連盟連絡	委員	1 名以上
O B 連絡	委員	1 名以上
体育会	幹事	1 名

- 第 6 条 部長、顧問の推薦は役員が行ない。部員総会に於いて承諾を得、主将が依頼して部長・顧問の承諾を得る。
- 第 7 条 監督は原則として、前年度主将があたる。

第 8 条 主将、ラリー委員長、会計は推薦により選出し、部員総会に於て、承諾を得、部長が任命する。

第 9 条 副主将、フィギア委員長、整備委員長、書記、連盟連絡委員、OB 連絡委員、体育会幹事は立候補又は推薦により選出し、部員総会に於て承認を得、主将が任命する。

第 10 条 以上の役員の任期は、下半期の部員総会から翌年のそれ迄とする。

第 4 章 任 務

第 11 条 部長及び顧問は、当部の対外的交渉の責任者として、当部の指導・監督をする。

第 12 条 主将は当部の対外的交渉において部長及び顧問と連帯責任をもち、且つ当部の運営の全責任をもつ。

第 13 条 副主将は主将の補佐を行なう。

第 14 条 会計は当部の一切の会計を担当し、部活動を統率する。

第 15 条 書記は当部の行事を一切記録し、主将に提出しなければならない。

第 16 条 連盟連絡委員は、全日本学生自動車連盟規約に準ずる。但し、代表委員は主将が兼任する事を原則とする。

第 17 条 整備委員長、フィギア委員長及びラリー委員長は、当部車、練習車の整備、フィギア及びラリーに関する責任を持ち主将を補佐し、部活動を統率する。

第 18 条 OB 連絡委員は、OB との連絡に関する責任を持ち、主将を補佐し、部活動を統率する。

第 19 条 体育会幹事は、体育会とクラブの連絡を常にとらなければならない。

第 5 章 部 員

第 20 条 原則として、当部の入部は年度始めとする。

第 21 条 当部への入部は、入部規定にもとづいて行なう。

第 22 条 当部員は、九工大自動車部昇格規定にもとづき A・B・C・D・E・F の 6 階級に分ける。

第 6 章 会 計

第 23 条 当部の経費は責善会予算部費入金その他の収入によりこれにあて

る。

第 24 条 部入部金は次の如くする。

部	費	1ヶ月	1,000円
入	部	金	4,000円

第 25 条 入部金は入部する時納入し部費は毎月前納とする。

第 26 条 上半期、下半期の部員総会において会計報告しなければならない。

第 27 条 部費の納入義務は4回生までとする。

第 7 章 練 習

第 28 条 この章は、学内での練習及びラリー・ダートラ練習を行なう場合に適用される。

第 29 条 学内での練習は、次のように規定する。

1. 練習に際しては、始業点検及び終業点検を行なわなければならない。
2. 練習車を練習場等に運転していくことができるのはC級以上である。
3. 練習車にて、練習を行なう場合、E・F級はA級、D級はA・B・C級の指導のもとに練盟しなければならない。但し、夏合宿におけるE級練習は、B・C級の指導を認める。
4. 学内での練習は、大学の許可を得、それに従わなければならない。また、F級練習は、練習場以外行なってはならない。
5. 練習中練習者が指導者の指示に従わない場合、指導者は練習を中止することができる。

第 30 条 ラリー・ダートラ練習は、次のように規定する。

1. 整備された車で、練習を行なわなければならない。
2. 練習は、必ず2台以上で行ない、各車A級を同乗させなければならない。また、ラリー・ダートラ出場時には、A級の承認を必要とする。
3. 練習は、A級が責任をもって指導しなければならない。

第 8 章 運 転 規 定

第 31 条 この章はA・B・C・D級の部車又はそれに準ずる車の運転を行なう場合に適用される。

第 32 条 当部は安全運転、交通法規遵守を宣言する。

第 33 条 部車の運転に際しては始業点検及び終業点検を行ない走行記録をつ

けなければならない。

第 34 条 部車使用後は清掃して車庫に納めねばならない。

第 35 条 トラック以外の部車又はそれに準ずる車の運転に対して、B・C・D 級の者は次の場合運転を禁止する。

1. A 級の指導の下でない時。
2. 交通が混雑している時。
3. 夜間ヘッドライトを点灯する必要がある時。
4. A 級の判断で、不適當とみなされる時。
5. 車庫の出し入れ時で誘導する者の居ない時。

第 36 条 第 35 条において、昼間 B 級が 2 名以上ど部用の為使用するに限り B 級は運転することができる。

第 37 条 部車のトラックは A 級のみ運転することができる。

第 38 条 部員もしくはそれに準ずる者以外の部車運転は禁止する。

第 9 章 事 故

第 39 条 運転を行なう際は事故を起さない様に注意すること。万一事故を起したら交通法規に従って処置すること。

第 40 条 事故により当方又は相手の車又は人あるいは器物に損害を与えた場合次の条項で処置する。

1. 部用中の事故に対しては次の様にする。
(イ) 部用中の事故に対しては次の様にする。

事 故 責 任 比 率

運 転 者		指 導 者	部
A 級	70	—	30
B 級	50	20	30
C 級	40	30	30
D 級	35	35	30
E・F 級	35	35	30

(ロ) 他の責任は、すべて運転者が負う。

2. 私用中の事故は、運転者の名に於てすべて負担する。

第 41 条 部車又はそれに準ずる車の事故に関して、部の被むった損害の全てについて、主将は、運転者に請求することができる。

第 10 章 故 障

第 42 条 部車を運転する際、故所個所があればすみやかに修理しなければならない。

第 43 条 使用中に於ける故障に対しては責任者が善処しなければならない。

第 11 章 会 議

第 44 条 当部における会議は次の 4 会議を言う。

1. 部 員 総 会
2. 部 会
3. A 級 会 議
4. 幹 部 会

第 45 条 部員総会は、上半期・下半期の 2 回を定期部員総会と称し必ず開かなければならない。

第 46 条 部会は主将が必要と認めた時開く事が出来る。

第 47 条 部会又は幹部会で必要と認められた時又は部員 10 名以上の要求があった時主将の名に於て部員総会を開く事が出来る。

第 48 条 全ての会議は、3 分の 2 の出席者によって成立する。但し、3 分の 2 に満たない場合でも、過半数以上の出席者があって、出席者全員の承認で諸会議は成立する。

第 49 条 部員総会は 1 週間前に公示しなければならない。

部会及び幹部会は 3 日前に公示しなければならない。但し、やむ得ない時はこの限りではない。

第 50 条 部則改正等の重要な議題は、部員総会、他の議題に関しては、部会に諮り、出席者の 4 分の 3 以上の承認をもって決議される。但し、出席者数が 3 分の 2 に満たない場合には、出席者全員の承認をもって決議される。

第 12 章 罰 則

第 51 条 部員に対して次の各項に該当するものは、A 級会議の決議により主将は之を謹慎又は除名する事が出来る。

1. 本部則に著しく違反したもの。

2. 当部員たる体面を汚し統制を乱したものの。

3. 部費2ヶ月以上滞納したるもの。但し、この場合は掲示により10日間の猶予をおく。

4. 部員総会、又は、部会により決定された事に違反したる者。

第52条 事故に対して処罰を行なう必要があると、A級もしくは主将が認めた時、主将は、ただちにA級会議を開き、その処分を決定しなければならない。但し、謹慎は、次の如くする。

部員の犯した重大なる事故に対しては、運転者は2ヶ月以内とする。

第53条 部員は、交通法規違反による減点及び事故は、必ず主将に報告する義務がある。

第13章 改正手続

第54条 第47条・第50条の手続を経て改正出来る。

第14章 補則

第55条 主将は、A級会議にかけて短期間に限り仮A級・仮B級をもうけることが出来る。

第56条 部車を使用して、私的利益行為をしてはならない。

第57条 部車の購入売却廃車は部員総会で決定する。

私 用 規 定

私用とは、原則として、定められた使用料金を部に納入して部車を使用することを言う。

1. 私用に関しては、第8章運転規定に基づく。但し、B・C・D級は練習ドライブ以外での運転は認めない。
2. 私用は次の全ての項目に該当する者のみ許可する。
 - (1) 部費および諸納金の滞納なき者
 - (2) 事故による謹慎が解除されて2週間以上経過したる者
3. 使用料金の納入は1週間以内とする。
4. 使用料金には、次の二つに群される。
 - (1) 部員料金………依頼者が部員又はそれに準ずる者である時
 - (2) 一般料金………依頼者が上記以外の者である時

昇 級 規 定

1. 次の各項に該当したる者は主将の名に於て資格を与える。
 - (1) F 級
入部規定にもとづいて新しく入部したる者
 - (2) E 級
交通法規の学科試験及び実技試験のE級試験を行ない。これに合格したる者。但し、E級試験対象者は次の各項に該当する。
 - a 部費等の滞納のない者
 - b 下級練習を一定の回数以上行なったと幹部が認めた者
 - (3) D 級
E級にて公安委員会の発行する普通免許以上の免許を取得したる者。
 - (4) C 級
D級で次の各項にすべて該当したる者。
 - a D級になって3ヶ月以上経過したる者
 - b 部費等の滞納のない者

- c 合宿に参加したる者
- d 降級処分中でない者
- e 遠征に一回以上参加したる者
- f C級試験に合格したる者。但し、C級試験は原則として月1回行ない内容は、フィギュア・整備・ラリーの計算とする

(5) B 級

C級で次の各項にすべて該当し且つA級会議に於て全員一致の承認があった者。

- a C級になって3ヶ月以上経過したる者
- b 運転技術、整備技術が優秀とみなされるもの
- c 部活動に活発な者
- d 降級処分中でない者
- f B級試験に合格したる者。但し、B級試験は原則として月1回行ない内容は、整備・フィギュア・ラリーの計算・弁論とする

(6) A 級

B級で次の各項にすべて該当し且つA級会議に於て全員一致の承認があった者

- a B級になって3ヶ月以上経過したる者
- b 運転技術、整備技術が優秀とみなされる者
- c 部活動に活発な者
- d 降級処分中でない者
- e 部費等の滞納のない者
- f 部員の統率ができる者
- g 遠征に2回以上参加したる者。もしくはそれにかわる練習ドライブを行ないA級に安全運転であると認められる者
- h A級試験に合格したる者。但し、A級試験は原則として月1回行ない内容は、トラック運転・弁論とする

2 昇級委員会を次のように設置する。

- (1) 監督が委員長を務め、A級の中から試験委員を任命する。但し、E級試験における交通法規の学科試験に関しては、C・B級でもよい。
- (2) くわしい試験内容は委員会が決定する。
- (3) 1週間前に試験日時を公示する。

3. 普通免許以上の免許を取得して入部したる者の昇格は原則として最初の昇格者に準ずるものとし、F級練習、E級昇格試験等を経なければならない。

降 級 規 定

1. 次の各項に該当したる者は主将の名に於てD級に降級とする。
 - (1) 部費等の滞納のある者。但し、この場合は掲示により10日間の猶予をおく。
 - (2) 交通事故を起した者。但し、降級に値する事故であるかどうかはA級会議で決定する。
 - (3) 免停、又は減点3点以上になった者。
2. D級に降級した者は次の各時点で元の級に昇級する。
 - (1) 部費等の滞納のなくなった時。
 - (2) 交通事故を起して1年経過した時。
 - (3) 免停後無違反で1年経過した時。
 - (4) 減点0になった時。

練習ドライブ規定

1. この規定は部車を使用して安全運転技術の向上を図る為に設けられたものである。
2. 原則として、トラック以外の部車を使用する。
3. 車1台につき、A級1人以上を同乗させる。
4. 原則として日帰りとし、それ以外の場合は主将の許可を必要とする。

入 部 規 定

1. 入部は、原則として年度始めとする。
2. 入部は、九工大学生に限る。
3. 入部を希望する者は、入部要領に記入の上、主将に提出しなければならない。
4. 入部届を提出して1週間以内に入部金を納入したる者は当部の部員たる資格を得る。

車 庫 使 用 規 定

1. 車庫の管理は、整備委員長が行なう。
2. 車庫内では、喫煙・飲食等は禁止である。
3. 整備した後は、必ず清掃しておかなければならない。また、使用した部の工具等は清掃し所定の場所に戻しておかなければならない。
4. 車庫及び車庫前に個人の車を駐車してはならない。
5. 原則として部員及びそれに準ずる者以外の車の乗り入れをしてはならない。
6. バイクの車庫乗り入れは、原則として、整備を目的とした場合のみで、エンジンを停止させた状態でなければならない。又、整備が終了しだい速やかに車庫から出さなければならない。
7. 上記の2～6に違反したる者には、主将又は整備委員長が、工具及び車庫の使用を必要な期間禁止することができる。

九州工業大学責善会自動車部OB会会則

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は、九州工業大学責善会自動車部OB会と称し、九州工業大学自動車部にその本部を置く。

第 2 条 本会は同部OBを主体とし、会員相互の扶助親睦を図るとともに、同部の発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 本会は前条の目的達成の為、次の事業を行なう。

- (1) 会 員 総 会
- (2) 支 部 会
- (3) 現部員との交歓会
- (4) 同部への援助
- (5) そ の 他

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 通常会員 OB会員
- (2) 特別会員 同部部長・顧問・参与等で入会を希望するもの
- (3) 賛助会員 同部に協力するもので会員総会によって推薦されたもの

第 2 章 役 員

第 5 条 本会はは次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副 会 長 1名
3. 幹 事 (常任幹事 1名を含み若干名)
4. 顧 問 若干名

第 6 条 前条の役員は、会員中より総会において選出する。

第 7 条 1. 会長は本会を代表統括し、且つ会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長不在の際はその職を代行する。

第 8 条 2. 幹事は予算決算の審議執行する。

前期役員の任期は 2 年とする。但し、重任、兼任を妨げない。

第 3 章 会 合

第 9 条 本会の会議は総会、支部会、役員会の三種とし、会議の議決は全て出席者（委任出席を含む）の過半数をもってする。

第 10 条 会員総会は、本会最高の議決最高の議決機関であり会長がこれを招集する。

1. 定例総会（年 1 回）
2. 会員の 5 分の 1 以上の要求があったとき
3. 会長が必要と認めたとき

第 4 章 会 計

第 11 条 本会の経費は会費及び寄附金をもってこれにあてる。

第 12 条 会費は 1 口 500 円として徴収する。

第 5 章 支 部

第 13 条 支部会は九州、関東、関西に設置する。その他の地区の支部は本会に届け出て設置することができる。

第 14 条 支部における細則は、支部によってそれぞれ定めることとする。支部長は幹事を兼任してもよい。

第 6 章 細 則

第 15 条 本会会則の改正は会員総会出席者の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

第 16 条 会員は職業、住所、姓名に変更があったときは直ちに本部に連絡せねばならない。

第 17 条 本会会則は昭和 41 年 1 月 26 日より有効とする。

昭和 60 年度役員・部員名簿

役 職	氏 名	学 科	出身校	帰 省 先	T E L
部 長	大西				
監 督	中村	4			
主 将	生越	3			
副主将 幹 事	松原	3			
副主将 フィギュア	近藤	3			
ラ リ ー	柿木	3			
書 記	三好	3			
会 計	三角	3			
整 備	福田	3			
O B	小嶺	3			
連 盟	真島	3			
体 育 会	貞莉	3			
体 育 会	高以来	3			

氏 名	学 科	出身校	帰 省 先	T E L
長 木	M 2			
井 上	M 1			
山 本	4			
一 瀬	4			
福 島	4			
山 田	4			
石 井	4			
諸 岡	4			
武 広	2			
坂 口	2			
永 富	2			
元 木	2			
御 領	2			
黒 田	2			
小 川	2			

氏 名		出身校	帰 省 先	T E L
坂 田	2			
山 下	2			
古 寺	2			
藤 井	2			
河 野	1			
山 崎	1			
猪 原	1			
藤 島	1			
永 沢	1			
城 戸	1			
鶴 田	1			
高 安	1			
今 泉	1			
谷 口	1			

※ 60年12月現在の部員の住所録です。

O B 名 簿

氏 名 科 勤 務 先 二 現 住 所

懸命の努力をいたしましたが、まだ御住所のわからない方がおられます
ので、御存じの方は下記連絡先まで御連絡下さるようお願いいたします

九州工業大学貴善会自動車部

編 集 後 記

最初に、編集委員である自分の怠惰により、部誌発行が当初予定していた期日よりだいぶ遅れてしまったことを深くお詫び致します。

部誌編集を依頼された時は、あれも載せよう、これも載せようと思気込んでいたのですが、結局、御覧の通りの部誌となった次第です。しかし、6年ぶりに部誌を出せたこと、また、OB名簿、部則に関しては、実に8年ぶりに、部誌に掲載することができたこと、そういう点では、ある程度納得のいくものができ上がったと満足しています。またこれにより、OBの方が、部の現状を知り、OB間の連絡がとれれば、幸いです。

最後に、部誌発行に際し、御協力を賜りました大西先生・徳尾氏・中村勉先輩、並びに自動車部諸先輩・部員皆様にこの紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

編集委員 真島 3)

双葉精版印刷

発行日 '85 / 12 月

発行者

九州工業大学責善会自動車部

発行所

双葉精版印刷